



中里の家だより
第 19 号

発行年月日
平成3年8月1日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470 (28) 2022

五年目を迎えて

施設長 山口 一

夏も盛りとなりました。ますます
すご清栄のことと存じます。

「中里の家」も五度目の夏を迎え
ました。わが中里ファミリーは
元氣一杯に過ごしております。今
は海水浴を中心に、夜の外出や野
外炊飯などを楽しんでおります。
そして、「中里の家」の大きな行
事の一つである納涼会の準備に追
われているようです。あるいは、
この雑文がお手元に届く頃には、
納涼会も終っているかも知れませ
んが、入所生や参加者一同が喜ん
で頂けるように、そして地域交流
の場として盛会裡に行えるように

願っている次第です。

さて、年度当初であるならば、
施設の今年度の運営方針などを
示ししなければなりません。こ
の時点でいままさら申しあげるの
時機を失した感がありますので、
いま施設が取り組んでいる処遇内
容、そして考え方などを申し述べ
てみたいと存じます。

「中里の家」は、ご承知のとお
り五年目を迎えたわけですが、関
係者のご協力、職員の努力など
より所期した施設としての形態を
整えることができました。入所生
の苦勞も大変だったと思えますが、

しかしその甲斐あって、ようやく
中里ファミリーとしての意識が芽
生えてきたことを喜びたいと思
います。今、日常の生活をみてい
ますと、職員は入所生に対して、自
分たちの兄弟のように接しており
ます。また入所生は、職員を自分
の身内のように信頼しきっている
ようです。これも、中里ファミリー
という施設の運営が実を結んでき
た成果だろうと評価しております。

しかしながら、更生施設として
の目的を考えますと、これで満足
しているわけにはまいりません。
ノーマライゼーションの思潮の中、
懸命に努力している入所生が一日
も早く地域社会の中で共に生活で
きるようにしなければならぬ大
きな目的があります。これは、言
うは易く大変難しい取り組みに
ちがひありませんが、避けて通る
わけにはまいりません。長い時間
と努力が必要だろうとは思いますが、
今までは今ままで、むしろこれ
からが施設としての正念場だろ
うと考えております。

本年度から、施設では一つの試
みとして、処遇の方法を少し異な

た形のものとなりました。全体活動
として行うものは限られた大きな
行事だけとし、日常の行事や活動
は、棟別あるいはグループ毎の活
動として処遇していくこととしま
した。従いまして、日常は各グル
ープ毎に異なる活動が展開されて
いるということであります。

紙面の都合で、具体的内容を申
し述べるのは次の機会にゆずりた
いと存じますが、前述した大きな
目的に向かっての手掛りとして、
入所生の適性・能力をのばす手段
として、また、それらに応じた処
遇を図りたいためのものでありま
して、将来は特別な個別指導もで
きる環境にしたいと考えておりま
す。「中里の家」の生活はまだま
だ続きます。皆さまのご理解・ご
協力がぜひとも必要であります。
よろしくお願い申し上げます。
来年は「中里の家」開設五周年
を迎えますが、なにか皆様と共に
喜び合える成果を期待したいもの
です。



保護者会会長挨拶

森井武義

保護者会会長という大役をお引き受けする事となりました森井でございます。使い走り役が適役でございますのに、役の重さに未だ戸惑っている有様です。

幸い、過去四年間の保護者会活動のしっかりとした基盤が出来ておりますので、微力ながら精一杯務めさせて頂きたいと思っております。どうかこれ迄と変わらぬ御協力の程よろしくお願い申し上げます。

去る五月十九日、館山市民センターを会場に催されました第二回チャリティバザーの折には、各市町村社会福祉協議会の皆様の御援助と、先生方の綿密なる計画の下、そして多くの地域社会の皆様の中里の家へ寄せて下さいます温かい御支援のお蔭様で、盛大に意義あるバザーを開催する事が出来ました。保護者の皆様方におかれましても、色々御協力頂きました誠にありがとうございます。これからも保護者が一丸となって

中里の家発展の為に邁進して参りたいと思っております。

又、六月十一・十二日の那須一泊旅行、高原の緑が清々しく、さわやかな風の中で温泉のぬくもりどっぴりとつかって参りました。

子供達の仲良くふれ合う様子を目の当りにして、施設長さまはじめ、指導員の先生方や職員の方の日頃の御指導の賜物と、厚く御礼を申し上げます。

七十七名のそれぞれ個性の違った園生が、思いやりの心で助け合いながら日々を過ごしている姿。正に理想の社会が中里の家にはあります。私達保護者も子供達をお手本に、中里ファミリーの一員として、子供達一人一人の成長を喜び合っって更に絆を強くして参りたいものと思っております。施設と共に保護者が一体となって、子供達の幸せづくりに励んでゆきたいと思っております。どうぞ今後共よろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。

各棟より

A棟

A棟の様子です

香田道丸

本年度のA棟は、基本的な生活習慣の確立、基礎体力及び体幹機能の向上を目標として指導を行っております。と、難しく書いてしまいましたが、要するに、みんな毎日生活してゆく中で、散歩や運動、ゲームやプールでの運動、軽作業など、楽しみながら身体を鍛え、また、紙芝居や人形劇、ビデオや音楽鑑賞など、マンネリ化を避け、ゆったりとしたペースで施設での生活が送れる様、配慮していくという事です。

29名の園生の指導に当たる、というよりは一緒に遊んでくれる指導員は、とっっても優しく楽しい11名の先生です。その中でもA棟は、園生16名・指導員7名が女子という女系家族ですから、本当に華やかでにぎやかな棟別活動に

なっています。その他にもA棟は楽しい行事が目白押しです。

これまでも城山でのお花見、行川アイランド、沖の島での磯遊び、野外炊飯や花火大会、海水浴などを行ってききましたが、これからはお祭り見物、鴨川シーワールド、藤原運動公園遠足、ファミリーパーク遠足、いちご狩り、マザー牧場など沢山の行事を予定しています。また、本年度購入予定のマイクロバスが入れば、さらに行動範囲も広がりますので、ディズニールランドなどにも足を伸ばしてみたいと考えております。

これからも、どうぞよろしくお願ひします。

B棟

潤いのある生活

岡田義之

ワイワイガヤガヤ、いつも笑い声や話し声が絶えない賑やかなB棟。今年度もこの活気を失うことなく、元気に過ごしていきたいと思ひます。

さて今年度のB棟の指導方針は、第一に「基本的生活習慣の確立」です。「自分のことは自分でできるように」をモットーとして、日課の中で生活指導の時間を設け、あるいは日々の生活の中の場面毎に身辺処理面の勉強をしていきます。第二は「社会的常識、行動規範の習得」です。施設内での生活を、居室活動等を通してより一般社会や家庭的な環境に近づけることと、施設外での活動を活発にしていくことよって様々な体験を積み、興味の枠を広げ、社会性を身につけていく事を目的として進めていきます。

その一環として、特に入所者が楽しみにしている行事が今年度も盛りだくさん予定されています。四月には鋸山遠足に行きました。暖かい春の日差しの中、皆で楽しくお弁当を食べました。五月には潮干狩り。熊手を上手に使い網一杯に採れた人、貝殻ばかり採っていた人と様々でした。そしてこれから八月には海水浴、ファミリーパーク夜間外出。九月には八幡祭礼見物、そして十月以降も楽しい

行事が目白押しです。

このように入所者・職員共に勉強し、楽しみ、それぞれの目標に向かって一歩ずつ成長していけるよう頑張っていきたいと思えます。

C棟

自立を目ざして

加藤祥子

就労・自立を目標とするわがC棟は、総勢七名。あらゆる困難を自分で解決するべく、日夜たゆまぬ努力をしている今日此の頃です。まずは「時間の意識づけ」「金銭の取り扱い方」「困難時の伝達方法及び対処のしかた」「一般的なマナーの習得」を重点に、社会経験を豊富にする行事や生活指導で実体験を積み重ね、それを自立への足がかりとして、この一年間頑張っていきたいと思えます。

それでは、先日行われた所外実習風景を紹介しましょう。ちなみに今回は、今までの訓練の成果を期待して、往復のバスは付添いなしで行ないました。服装はさすが

C棟、みんなバスしましたが、2名程ボーダーラインの人もいました。バス代をしつかり握り、バスの時間に間に合せて行く事も出来ましたが、殆どが帰りのバス時間には無頓着…。おまけに駅での職員との待ち合せも待ちきれず、いなくなってしまう人もいて職員は冷汗ものでしたが、それでも自分の買いたい物はしつかり手に入れ、ご満悦でした。みんな細かい計算は不得手でも、千円でどれくらいの物が買えるか体得できており、かなりの進歩がみられます。

この他にも七・八月には海水浴や館山市の花火見物、九月には八幡祭礼見物、十月はデイズニード、十二月はみかん狩り、一月の雪見旅行など、少人数を生かした行事を計画しています。

C棟の入所者・職員にとって今年度は試練の時と言えるかもしれません。職員も職場開拓を積極的に進め、職場実習や就労の機会を得られるよう努めるつもりです。あたたかい御支援をお願い致します。

第2回 チャリティーバザー 開催される

去る五月十九日、館山市民センターを会場に、第二回チャリティーバザーが開催されました。早くからの計画・準備に際して、各市町村の社会福祉協議会を中心に、地域ボランティア・保護者会の皆様方からの御援助をいただき、また地域社会の皆様からの多くの御理解と御支援のお蔭で、無事当日を迎えることができました。準備を整え、期待と不安の入り混じる中ふと外に目を向けると、すでに開場を待つ多くの人ばかり。予想以上の反響に、驚きと同時に喜びが込み上げてきました。

盛大に催されたこのチャリティーバザーを通じ、中里の家に対する多くの方々の御理解・御協力の深さを改めて感じました。感謝の気持ちを忘れず、今後充実した施設づくりを図ってゆきたいと思えます。

一泊旅行を終えて

行事係

去る六月十一日・十二日、第五回中里の家一泊旅行が行なわれしました。梅雨真只中でもあり天候が心配されましたが「中里伝説」：神は裏切りませんでした。両日共に快晴、梅雨の晴間に広がる青空の心地好さを肌で感じながら、中里ファミリ一行は一路、那須方面へと向かいました。バスの中では動く景色を見ながら自慢の喉を披露し合い、那須までの長い道程を忘れてしまう程でした。那須高原に近づき房州とは一味違う緑を目に焼きつけ、だんだん近づく遊園地の観覧車やジェットコースターのレールを見ては、はやる気持ちを抑えられず嬉しそうに声を出していました。ハイランドパークに到着すると、それぞれ自分の乗りたい乗り物指して出発して行きました。観覧車などゆっくり動き乗り物に乗っている人、ジェットコースターなどスリルのある乗り物に挑戦している人など様々でし

た。ハイランドパークでは入所者達に負けず、職員や保護者の方々も童心に返り楽しめたのではないかと思います。ホテルでは温泉につきり旅の疲れを癒した後、宴会で美味しい料理を口に運び、楽しい一時を過ごしました。二日目は茶臼岳に登り壮快な景色を楽しんだ後、りんどろ湖ファミリ牧場へと向かい楽しく過ごしました。今回の那須方面への旅行は天候に恵まれました。これも中里ファミリの日頃の行ないの良さからであり、又楽しい思い出を作らせたいと思う職員一同の願いが通じたからではないかと思えます。



新人職員挨拶

指導員 鹵井綾子

はじめまして。富山町出身、22歳です。

中里の家に入って早くも三ヶ月。最初は、私より数倍もでかい園生達に囲まれ大変圧倒されましたが、今では何とか仕事にも慣れました。園芸班では色白の肌を色濃くし大輪の花を咲かせようと努力しています。

泣いたり笑ったり、悪戦苦闘しながらも頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

指導員 鈴木香奈子

四月から勤めさせて頂いております。昭和四十二年館山市で生まれ、静岡で育ちました。現在、富浦に住んでおります。

人と人との触れ合いの中で色々な出来事に出会いながら、人間性豊かな、ぬくもりのある指導者を目指していこうと頑張っております。宜しく御願い致します。

指導員 加藤亜矢

こんにちは、今年二十一歳の加藤亜矢と申します。館山で生まれ育ち、家は館山駅の近くにあります。

中里で社会人一年生をスタートさせて三ヶ月。毎日毎日、緊張しながらひたすら動きまわっている日々です。これからも今の緊張感を忘れず頑張ります。

編集後記

強い陽射しに本格的な夏の訪れを感じるこの頃、中里の家のみんなも楽しみにしていた海水浴やプールが始まり、毎日、暑さに負けず元気に過ごしています。八月三日の納涼会の準備にも熱が入る毎日です。

平成三年八月号は、一泊旅行の楽しい思い出や、新人職員の挨拶などで編集しました。「虹」を発行するにあたりご協力下さった方々、有難うございました。